

中国で社会問題化する学校教育 —北京市の小学校入学事情—

北京事務所

はじめに

9月は中国の新学期が始まる時期です。わが家の6歳の娘も小学生になりました。これから、新しい道のりが始まると、期待に胸をふくらませています。一方で、小学校の入学時に頭を悩ませた私としては、今後への不安も抱えています。私が経験した北京市の小学校入学の現状を皆さんにご紹介したいと思います。

一、「越境择校」

北京市は16の区（そのうち、朝陽区、東城区、西城区、海淀区、豊台区は市内に位置する区である）と2つの県に分けられていますが、教育資源に限って言えば、東城区、西城区と海淀区が断トツに充実しています。特に、名門大学への進学率の高い中学校はほぼ東城区、西城区と海淀区に集中しています。

しかし、北京市では小学校から中学校への進学の際に、区と区の間での越境受験ができず、同じ区内でしか選択できないという規制があります。子供を上記3区以外の区（例えば、私の住んでいる朝陽区）の小学校に入れたら、いくら子供が優秀であっても、朝陽区内の中学校にしか進学できないのです。しかし、人口と面積の一番大きい朝陽区には、これといった優良中学校は1・2校しかありません。そのため、小学校入学のときから朝陽区を脱出しようと思う親がたくさんいて、いろいろな手を講じて子供をほかの教育資源に恵まれた学校に入れます。このような教育資源に恵まれていない区に住んでいる子供が資源の優れた区の学校に入ることを、「越境择校」（择校：学校を選択すること）といいます。

「越境择校」は、学校に何万元もの協賛金を払うのはもちろんのこと、親の人脈が求められ、さらに子供への厳しい面接試験があり、そう簡単に実現できるものではないですが、毎年、たくさんの子供が越境試験に成功し、小学校に在籍する学生数が上記3区に偏っています。例えば、わが子が入る朝陽区の小学校では1学年5クラスあり、1クラスに35人の学生しかいませんが、子供の友達が入った東城区のとある名門校では1学年14クラスで、1クラスの学生数が50人もいます。

二、「学区房」

中国の小学校入学は学区制で、家の近くにある学校に無試験で入るのが基本ルールであるため、どの街のどの家に住んでいる子供がどの学校に入れるかは、あらかじめ決められています。そのため、親が物件を購入するとき、名門校がある学区の物件にすれば、子供が自然と名門校に入学できます。このように、名門校に入れる住宅のことを「学区房」といい、主に、東城区、西城区と海淀区のような教育資源に恵まれた地域に位置しています。

「学区房」という言葉はよく不動産取引市場で使われていますが、北京市の教育体制の欠如、教育資源の不均衡を表す独特の言葉でもあります。名門校に入学できるという高付加価値がついているので、値段が年々高くなっています。この間のニュースでは重点中学校への高い進学実績を誇る海淀区にある小学校の「学区房」の単価が10万元に上昇していると報じられていました。すでに市内平均単価の4倍に達しています。「学区房」を購入する動機は子供を名門校に入学させることですから、実際に取引されている「学区房」は、値段の割に設備や環境がさほど優れていません。しかも、単価が高いため、小さなワンルームが一番人気だそうです。

三、「裸受験」

上述のように、小学校の入学は学区制ですが、ごく一部の名門校だけは優秀な子供を集めるために、住住所を問わず、市全体の子供を対象に、申し込みさえすれば、試験に参加するチャンスを与えるという、公平そうに見える試験制をとっています。このように、お金や親の人脈や「学区房」とは関係なく、子供が自分の実力だけで名門校の面接試験に参加することを「裸受験」といいます。しかし、このような一般公開で申し込みのできる学校は非常に少なく、競争が激しいものです。例えば、北京で一番話題になっている「裸受験」のできる場所は「北京市育民学校」という名門校にある超エリートクラスです。そのクラスのたった30人の枠に毎年2000人を超える子供が申し込んでいます。幼い子供にとっては、厳しすぎる競争だと言えます。しかも、学校の面接試験に合格するため、あるいは、ほかの子も一生懸命勉強しているからわが子だけを遊ばせてはいけないなど、いろいろな理由で、小さな子供達は学校に入学する前に、すでに重い勉強へのプレッシャーを背負っているのが現状です。最近流行っている言葉で、「現在の学校教育はまるで幼稚園は小学校のよう、小学校は中学校のよう、中学校は大学のよう、大学は幼稚園のようになりかけている」と言われているように、学校教育はすでに一つの社会問題となっています。政府も一生懸命解決案を模索している模様ですが、いまだに、いい方策が出てきていません。

おわりに

朝陽区の小学校に子供を入れた私は、6年後、わが娘が中学校へ進学する時に、区を問わず、北京市のすべての教育資源を子供達が試験で公平に享受できるよう祈るしかありません。

(張調査員)